

# ガラクタのような家



Mar. 2020 - Oct. 2023. ogawaa design studio + 桜間万里子

大阪にはごちゃごちゃと雑多で居心地のいい町が普通に存在し、そこで育った住民の多くは慣れ親しんだその町に愛着を抱いている。  
そしてそこそこ多くの人々がそれに惹きつけられる。  
平凡さの非凡な組合せを発見する喜びや包まれるような安心感といった魅力がそこには備わっている。



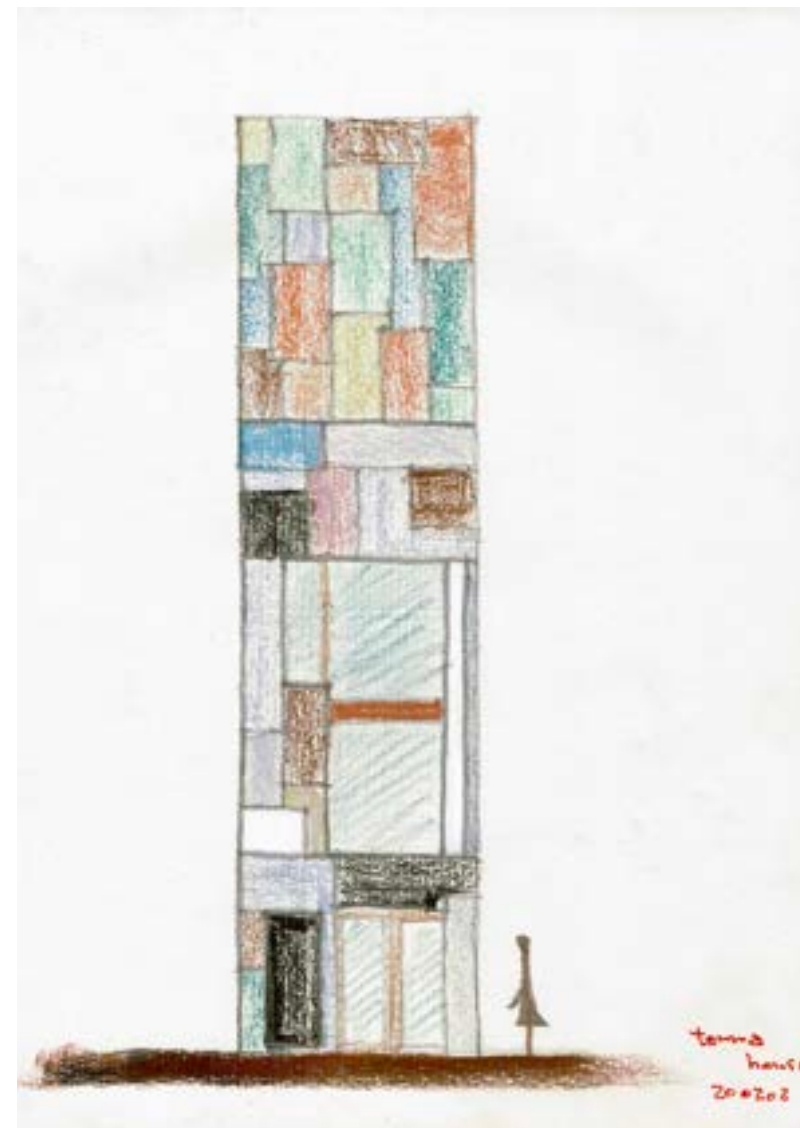
night scene of the town



day scene of the town



house before renovation



first sketch for the renovation

そういう町で、ある女性が長年過ごし老朽化した家を店舗付住宅に新しく改修した計画である。

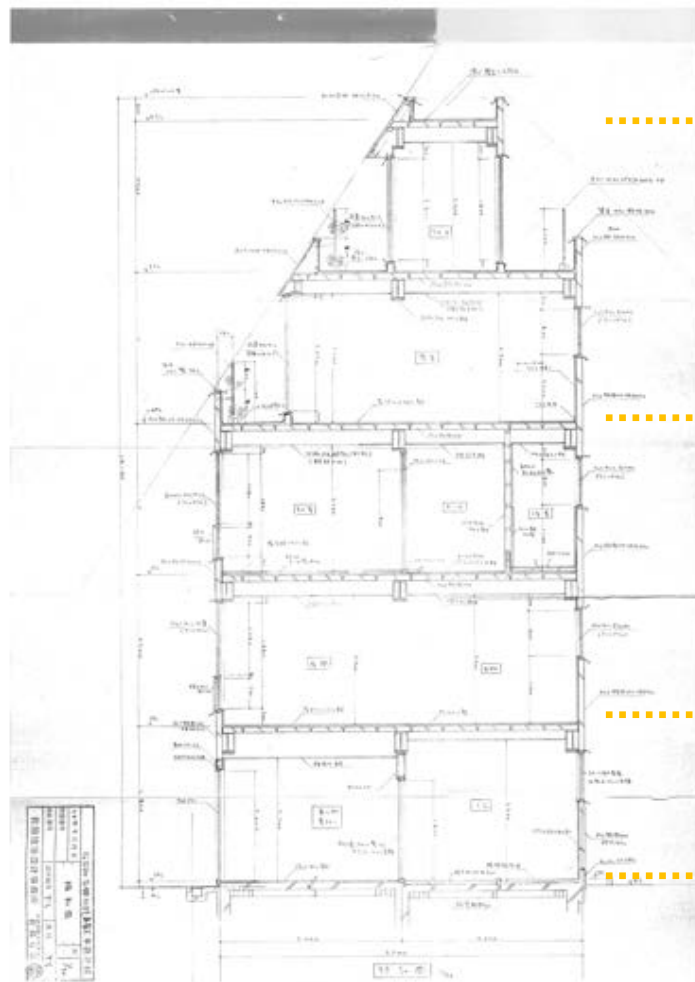


north facade (day)



north facade (evening)

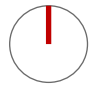
築50年近く経った建屋の基礎と鉄骨躯体、両隣の家と半ば一体化してしまった東西の外壁を残し、その他は全てリニューアルした。利便性の高い立地ながら9坪弱の限られた計画地にしてもともと5階建であったが、狭さの解消と法規制の観点から2～3階を吹抜けとし、3階建の計画とした。階と階の間には、メンテナンスに利用できるテラスを設け、空間の立体感を高めた。



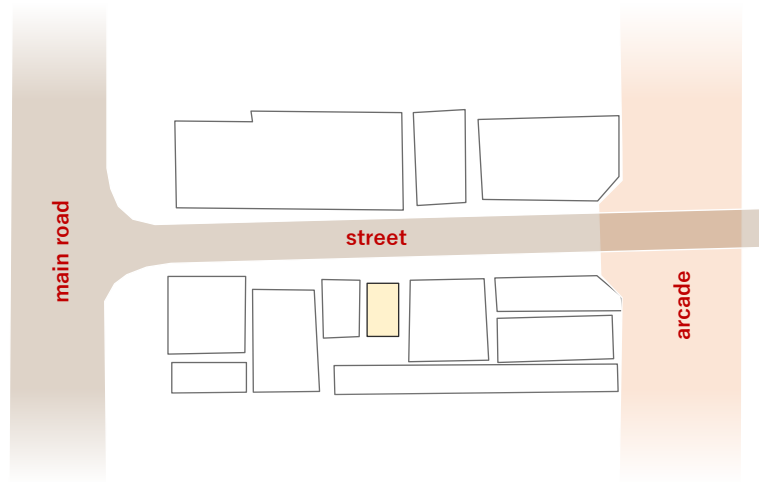
section before renovation



section model after renovation



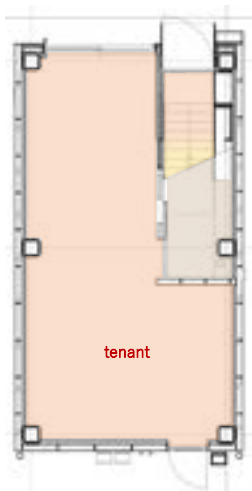
Site map



また縦移動に必要となる階段を生活空間の1つと捉え、住宅部分においてはそれを中央に置くプランとした。



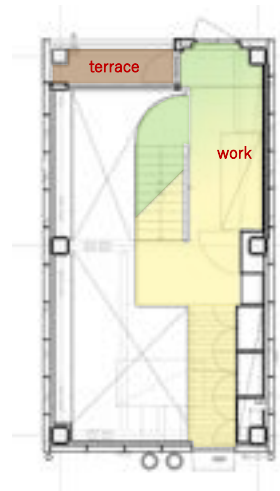
2f



1f plan



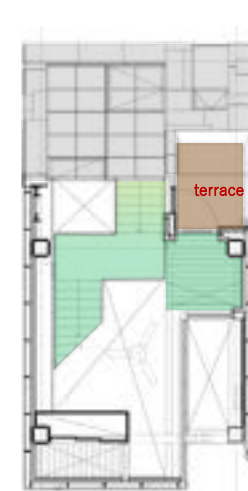
2f plan



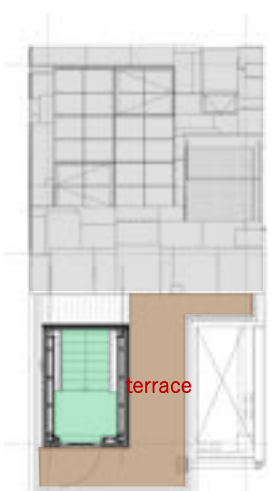
2-3f intermediate landing plan



3f plan



3-Rf intermediate landing plan



roof plan

階段と吹き抜け、バルコニーによって建屋全体は緩やかに繋がっているが、足元から上層にかけてグラデーショナルにプライベート性は高まり、屋上で再び町とつながる。

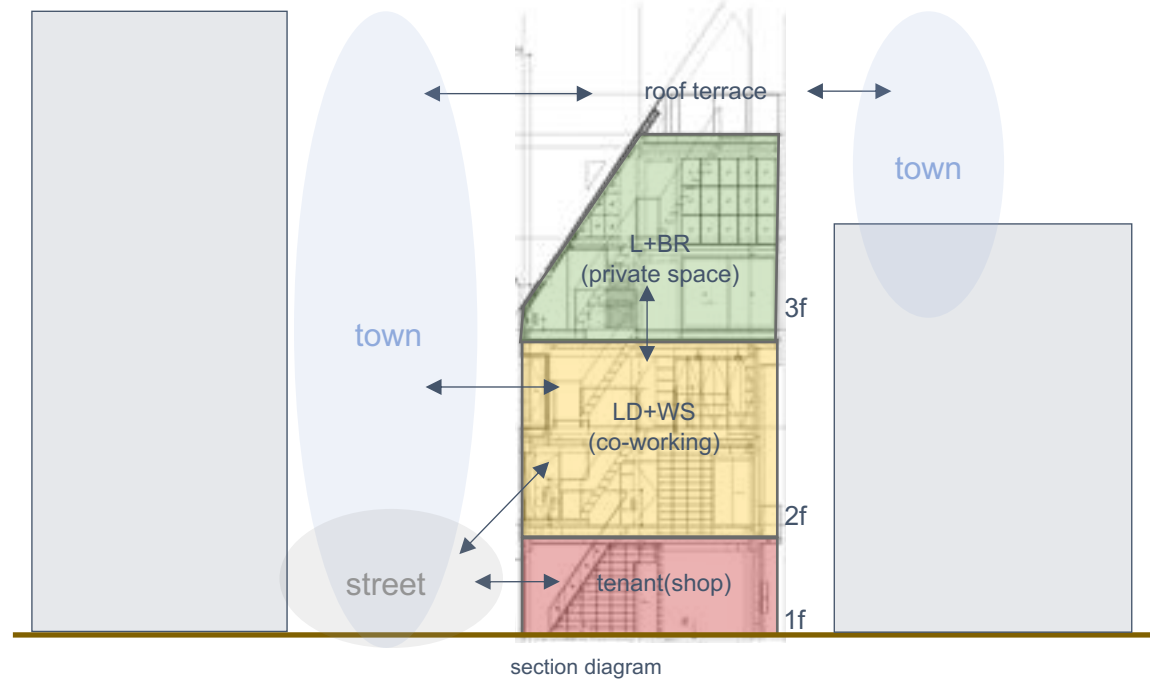
exterior view along the front road (day)



exterior view along the front road (night)

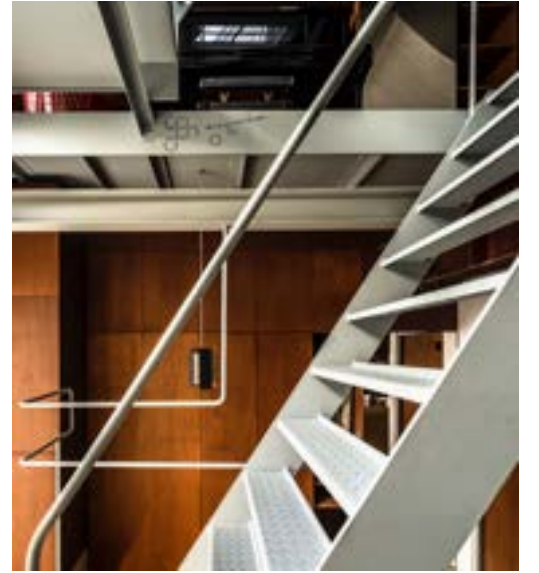


roof terrace (night)





2-3f landing



2f



2f



2階は信用できる間柄になら貸し出すこともできる。





3f



3f



3-Rf landing



3f



3-Rf landing



3f



3f



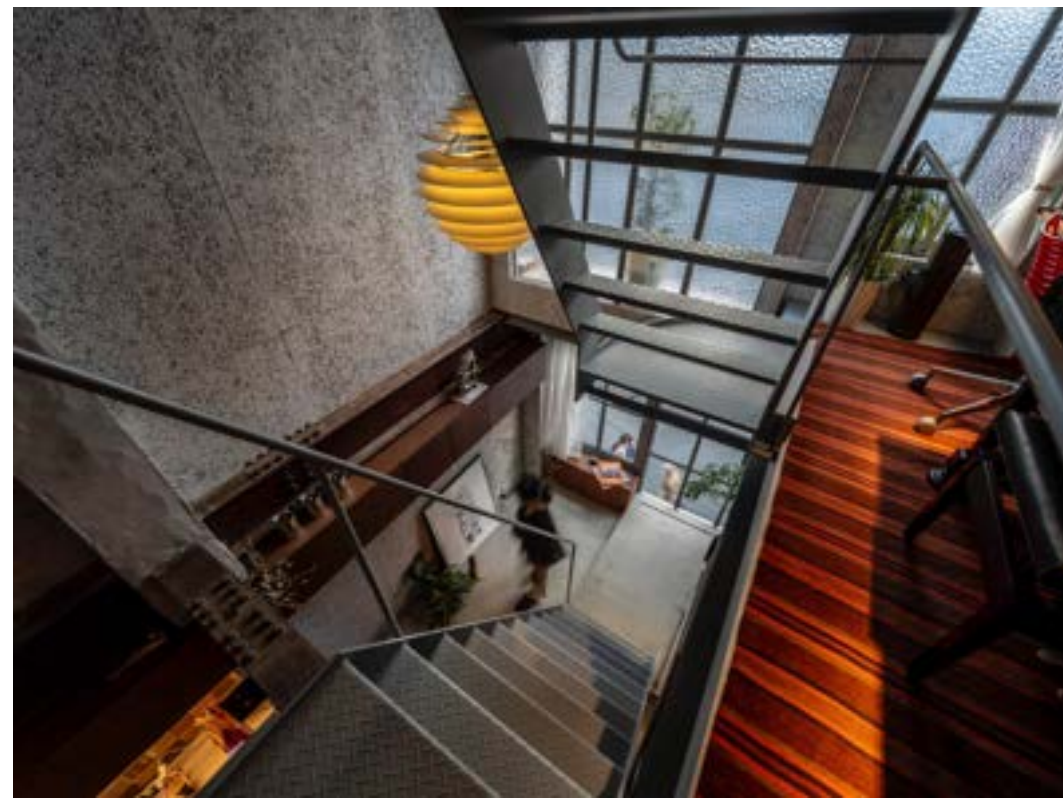
north facade (day to night)

曖昧な境界設定やファサードデザインを通じて、暮し手にとって店舗や町が、店員にとって住居や町が、我がもの的一部分であるような感覚を抱かせ、相互に独特な関係性を生み出すことを試みている。



2-3f landing

室内には、ごちゃごちゃと包まれるようなこの町の空気感を呼び込みながら、ある種贅沢な開放感や町とのダイレクトな関係性を築くことで、道ゆく人に対して家が自分だけの秘密基地みたいに特別な存在となるようにした。



2-3f landing



2-3f landing

The steel frame, which has deteriorated over time, has been given a special clear coating to bring out its texture.



2-3f landing

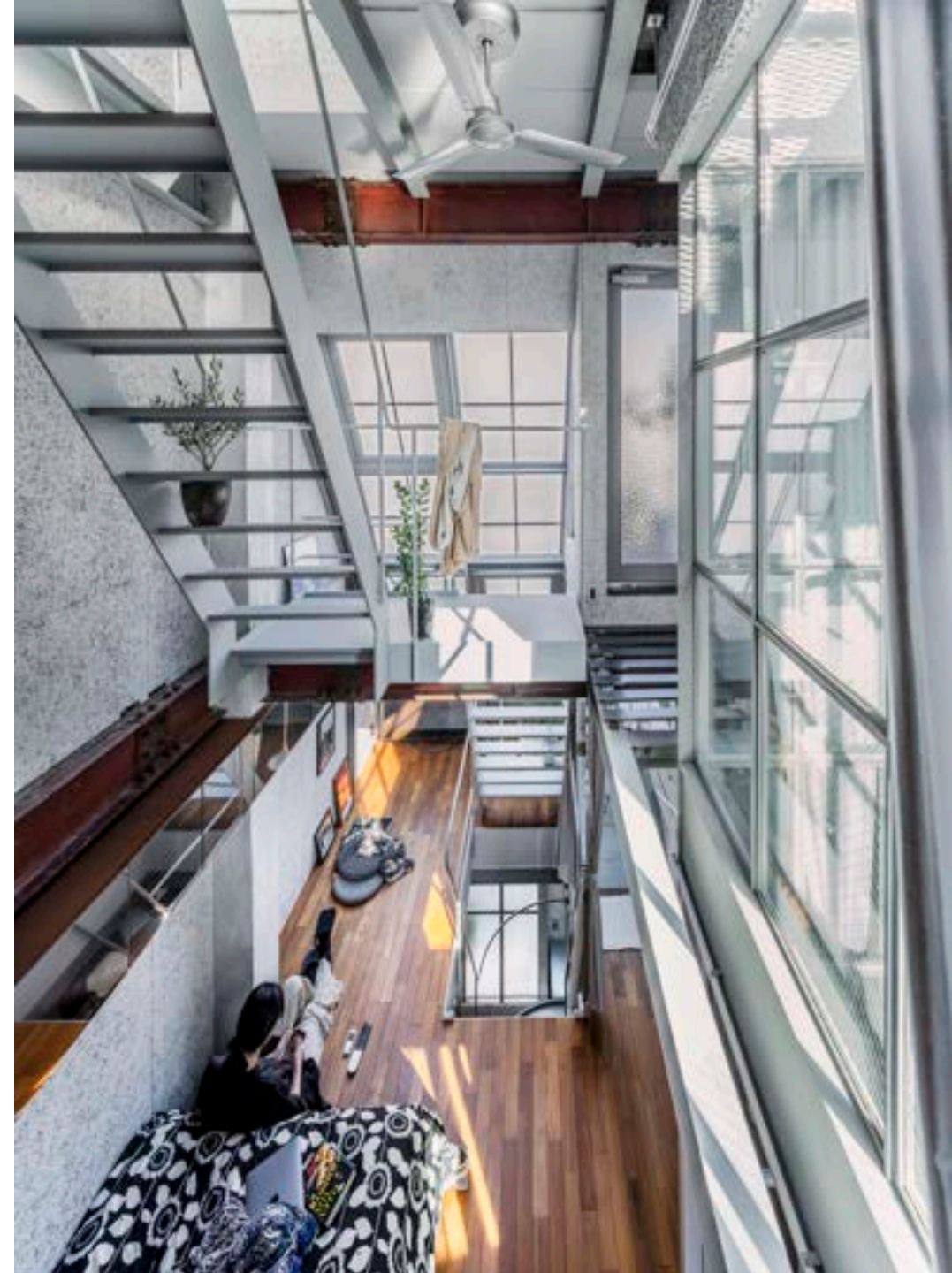
階段を軸に展開される意外性に満ちたシーケンスと使い方に工夫を要する空間構成に対し、  
経年を感じさせる要素と新しい要素を組み合わせ、  
時間をかけて奥行きのある愛着とノスタルジーが醸成されるようにした。

3-Rf landing



Part of the interior and exterior uses scrap galvalume steel plates from demolition sites.

次第に当初の建築的主張は薄れ、  
これから彼女が楽しみながら揃えていくものや体験が折り重なることで、  
この家は町と共に多様なノイズに溢れるだろうし、より町に馴染んでいくと考える。





即物的で人からはガラクタのように見えても使い手にとってかけがえのない空間は確かに存在するが、それは物質的な豊かさというよりも、そこに注ぎ込まれる情感や得られる体験、時間的な豊かさといった「関わり度合い」によるところが大きい。





町への愛着が日々の自然なコミュニケーションを生み、かけがえのない日常風景を形づくる。

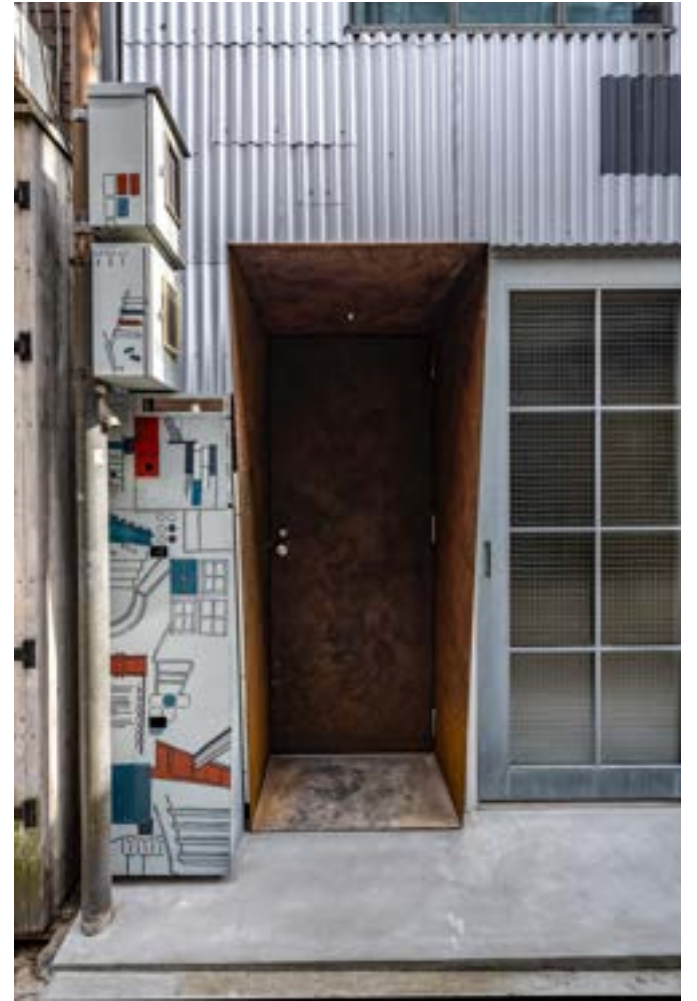


north facade (day to night)

There is graffiti on the surface of the front box where the meter, mailbox, and intercom are stored. They are a collection of the "house fragments" that illustrator Yui Kojima drew in various parts of her house.



details

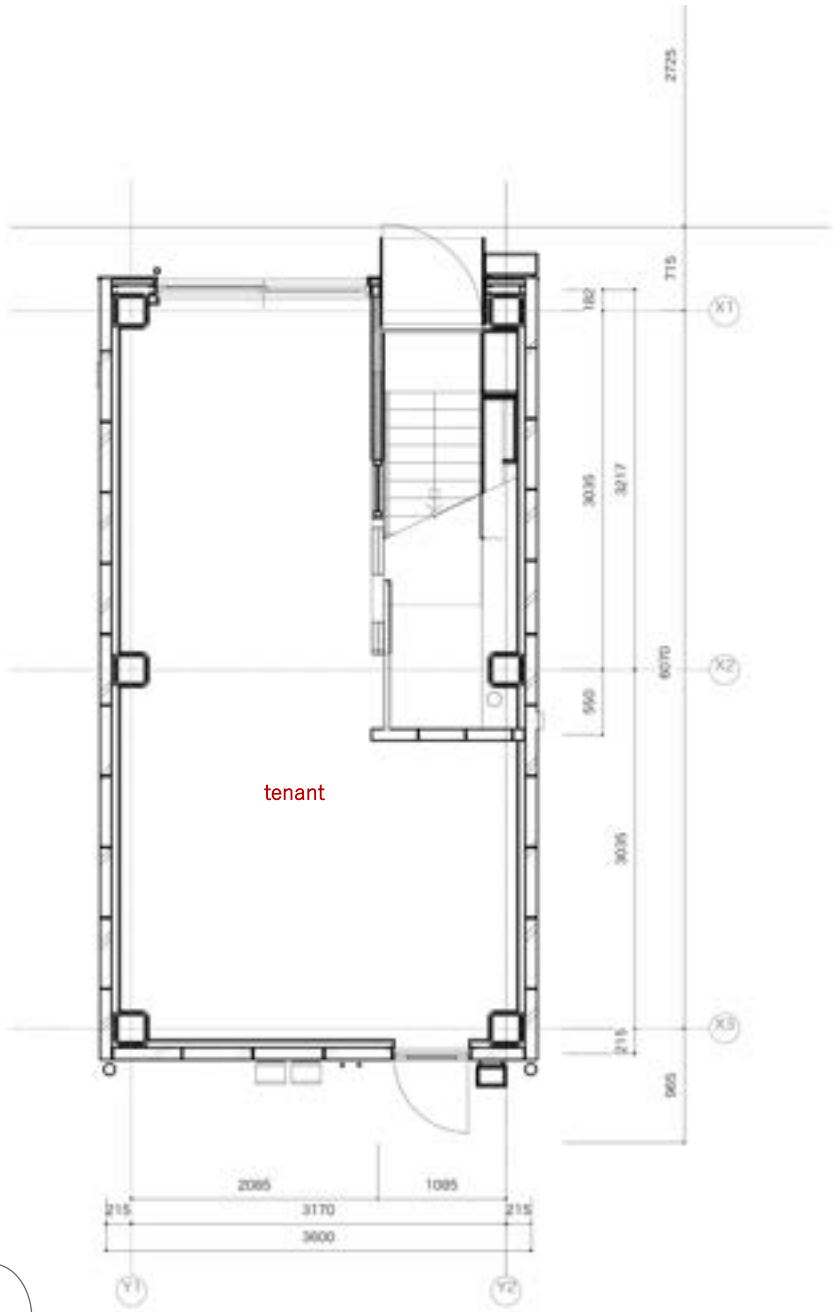
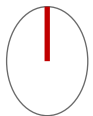


自らの暮らしを豊かにすることで町も豊かにしようとするごく自然で当たり前なアプローチは、ルールや流行り廃りに頼って画一的に整備された街並みとは異なり、約束された感動や大袈裟な体験こそ生み出さないかもしれないが、街にある種の深みを与えるように思う。

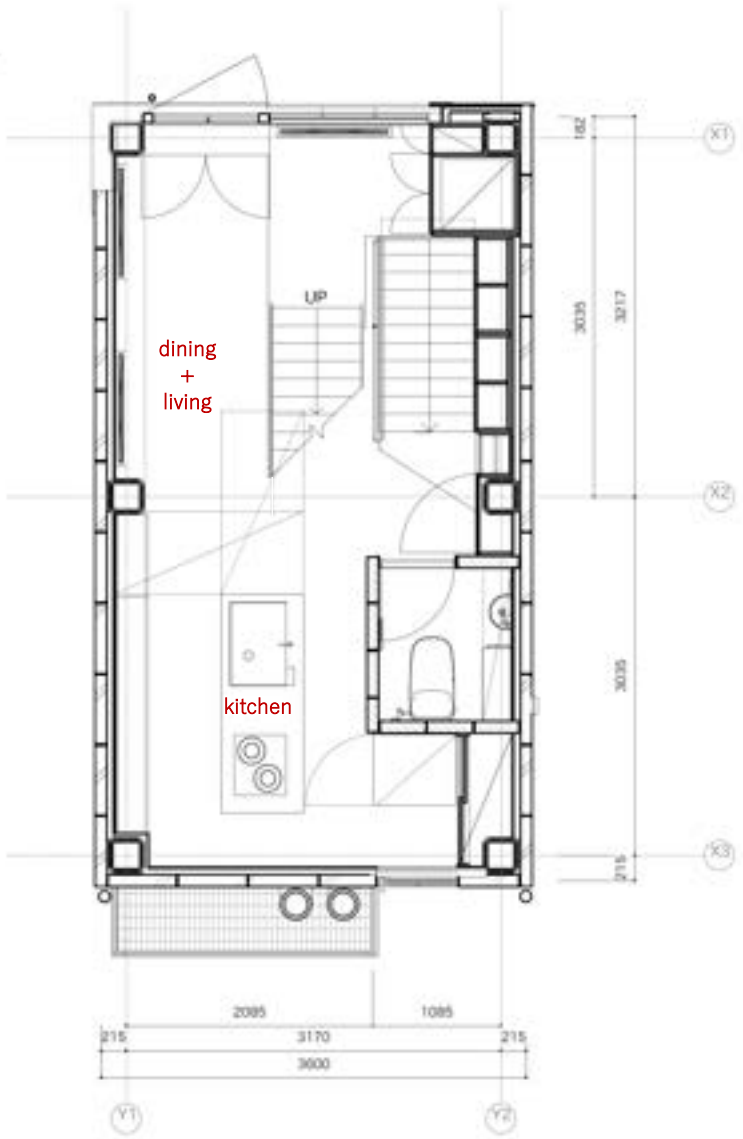


facade drawing by illustrator Yui Kojima after the house was completed.

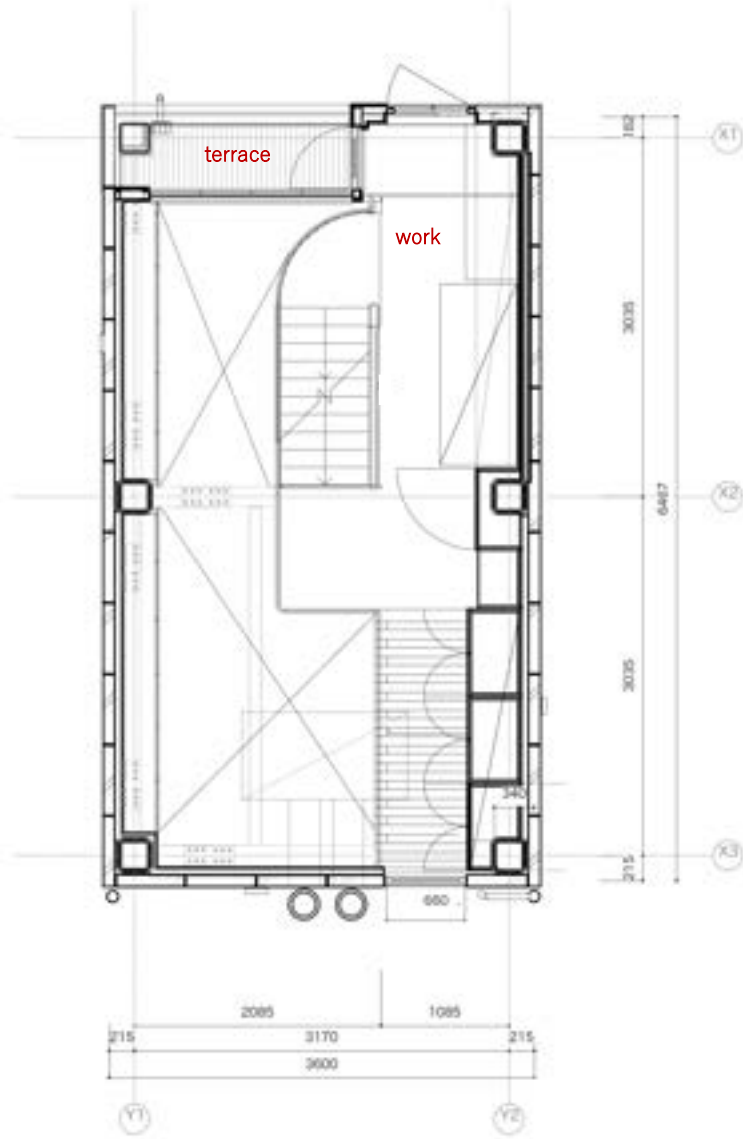
それはパブリックスペースや開かれた活動を作為的につくりだすのとは異なる公共性のあり方として、さしあたり庶民が自治を育む大阪では普通に存在するように思う。



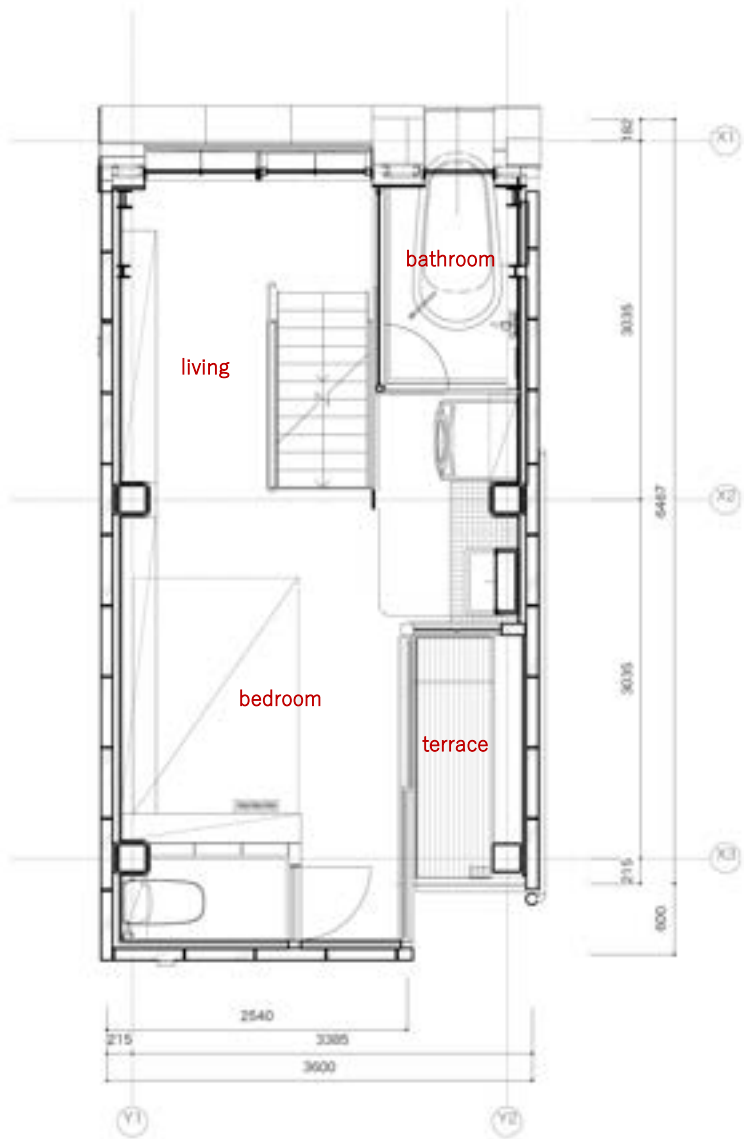
1f plan with site



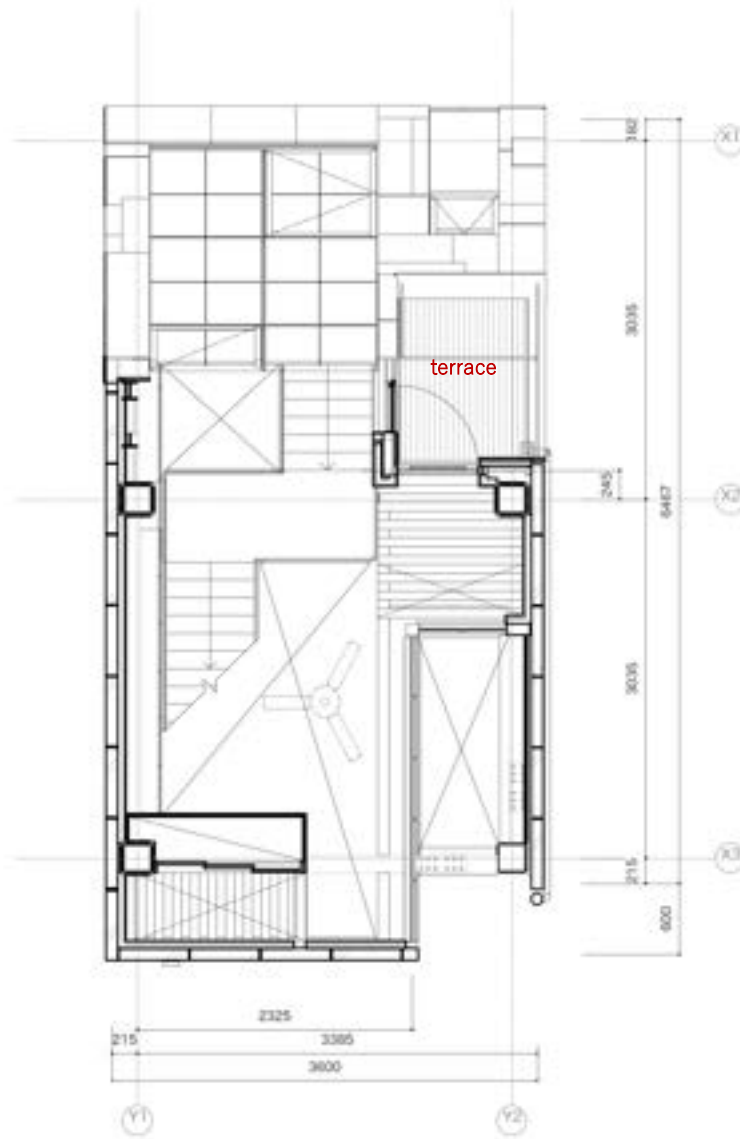
2f plan



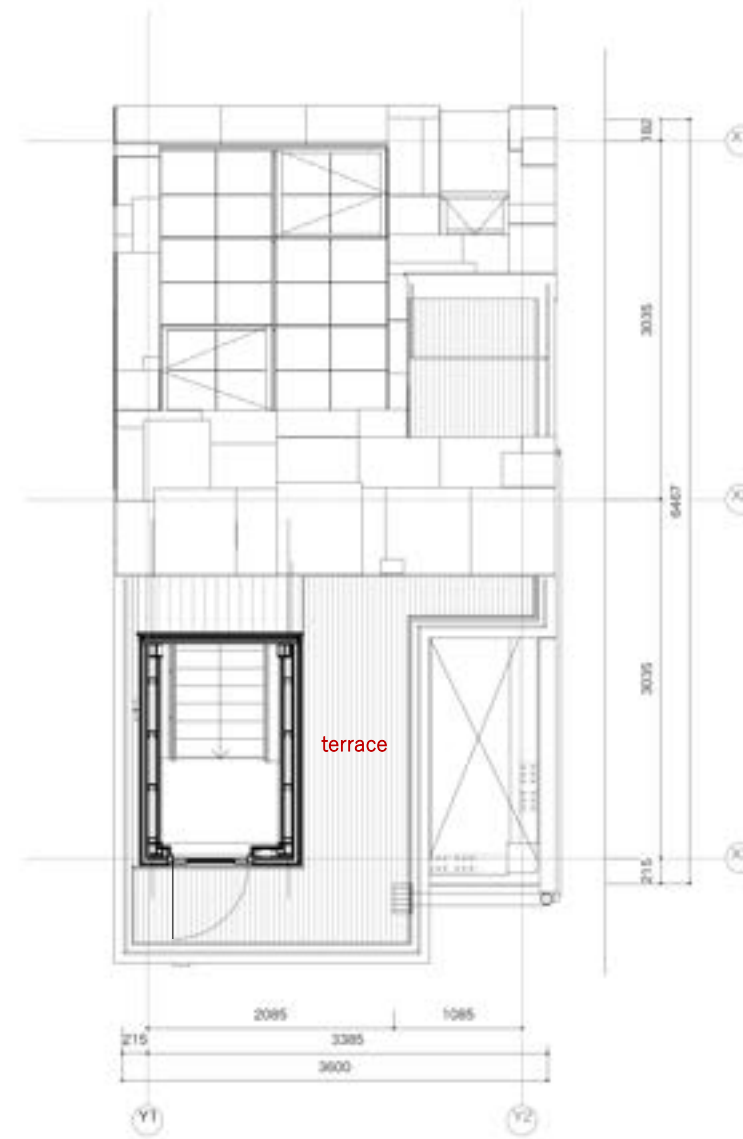
2-3f intermediate landing plan



3f plan



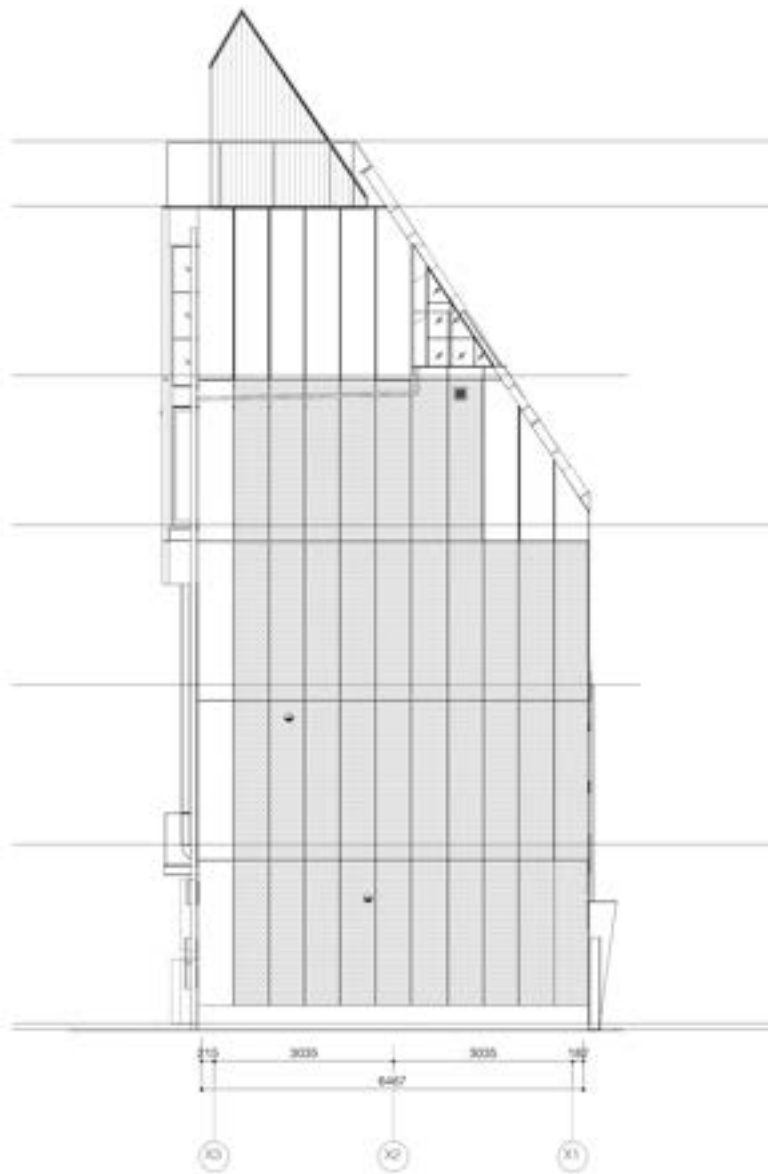
3-Rf intermediate landing plan



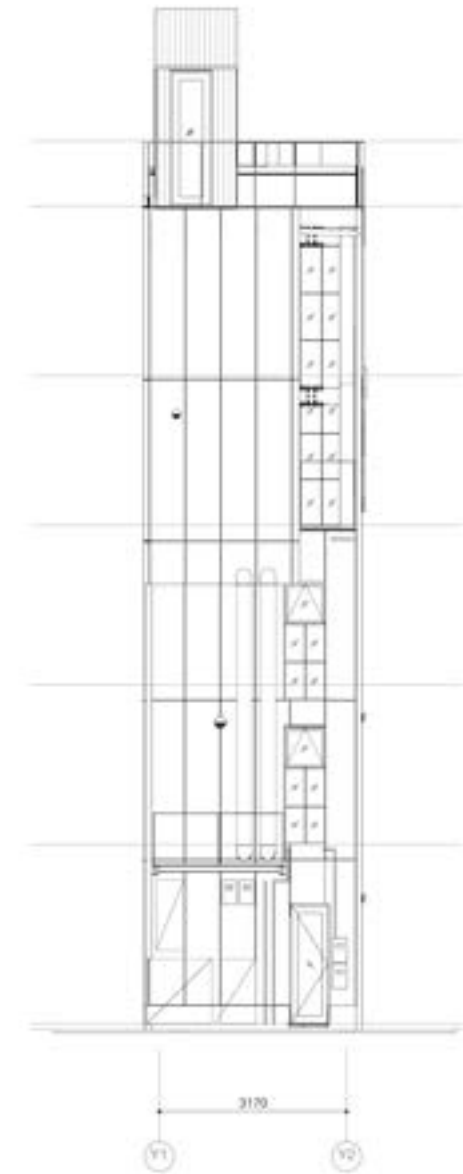
roof plan



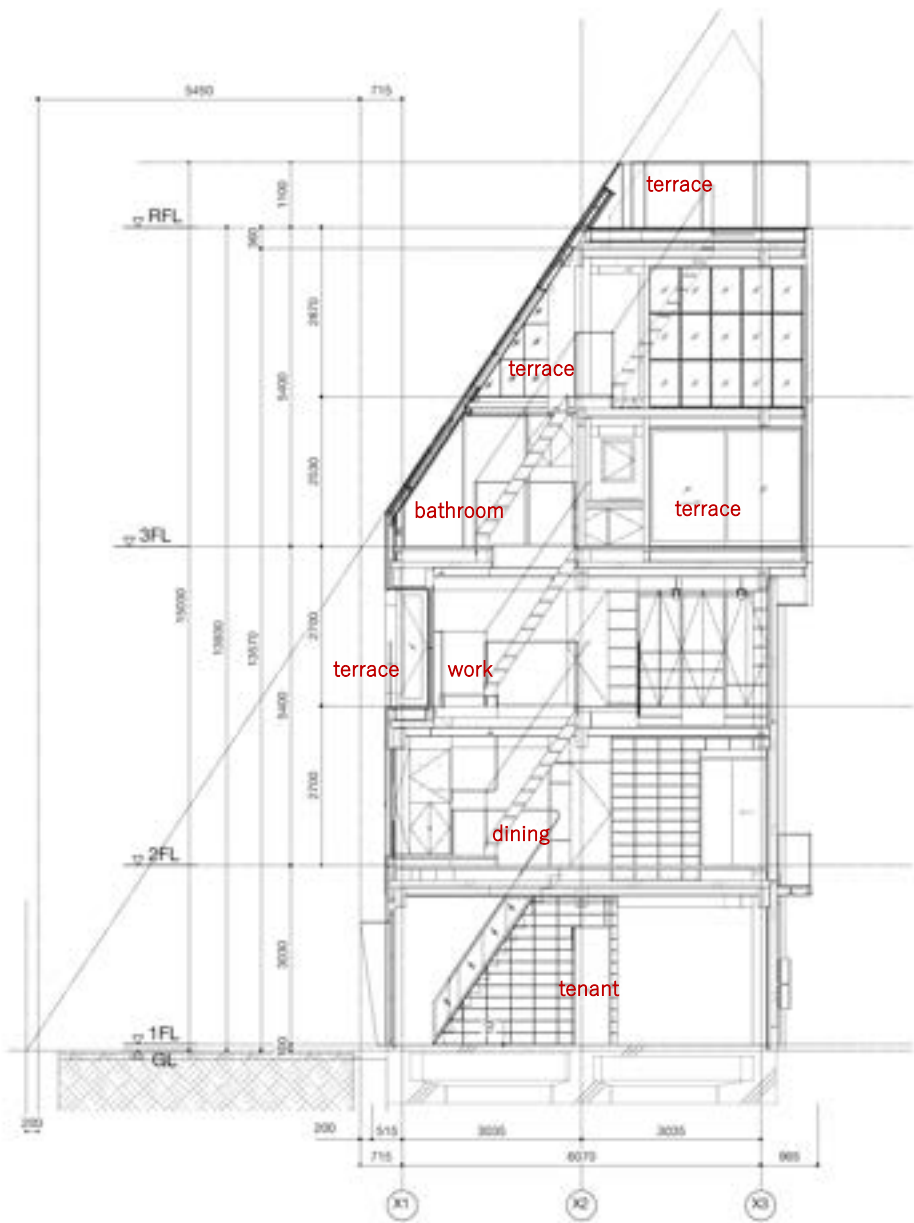
north – elavation



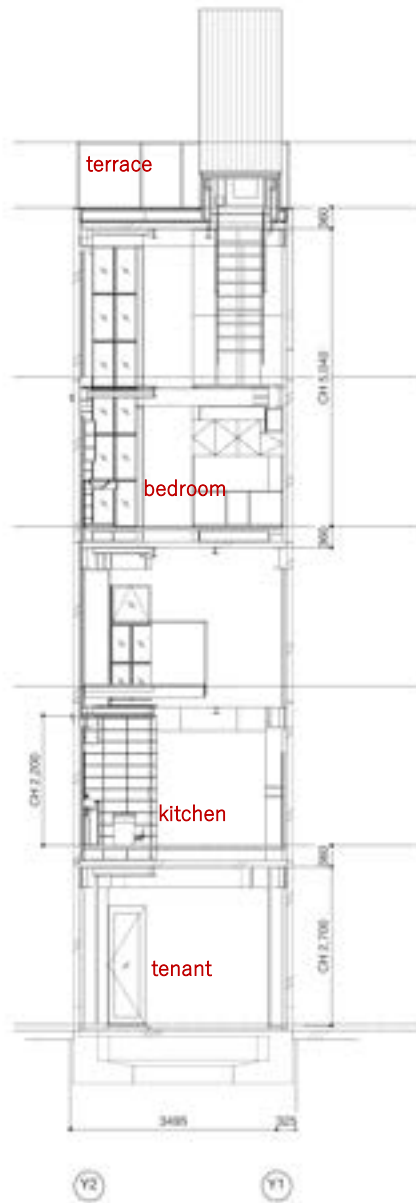
east – elavation



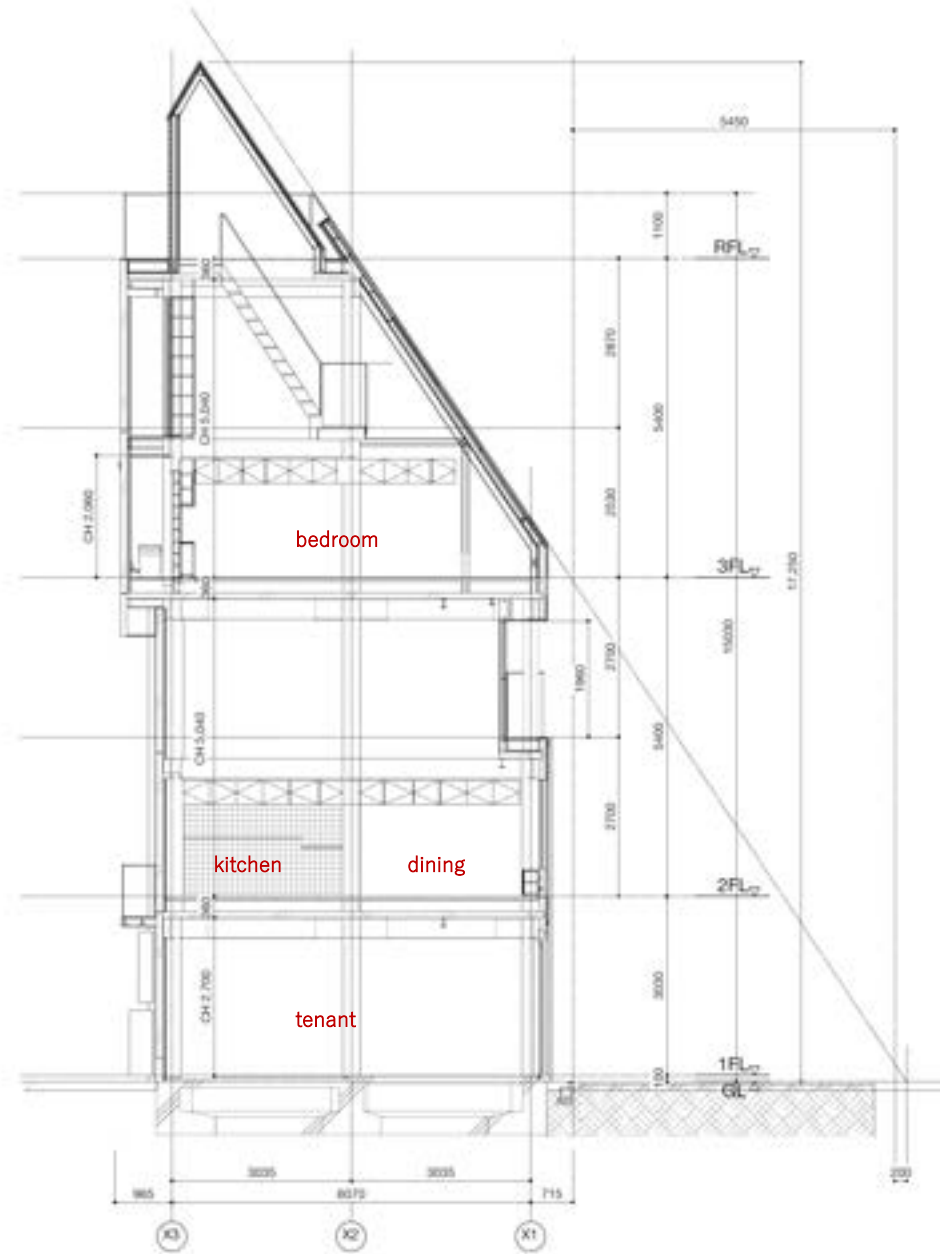
south – elavation



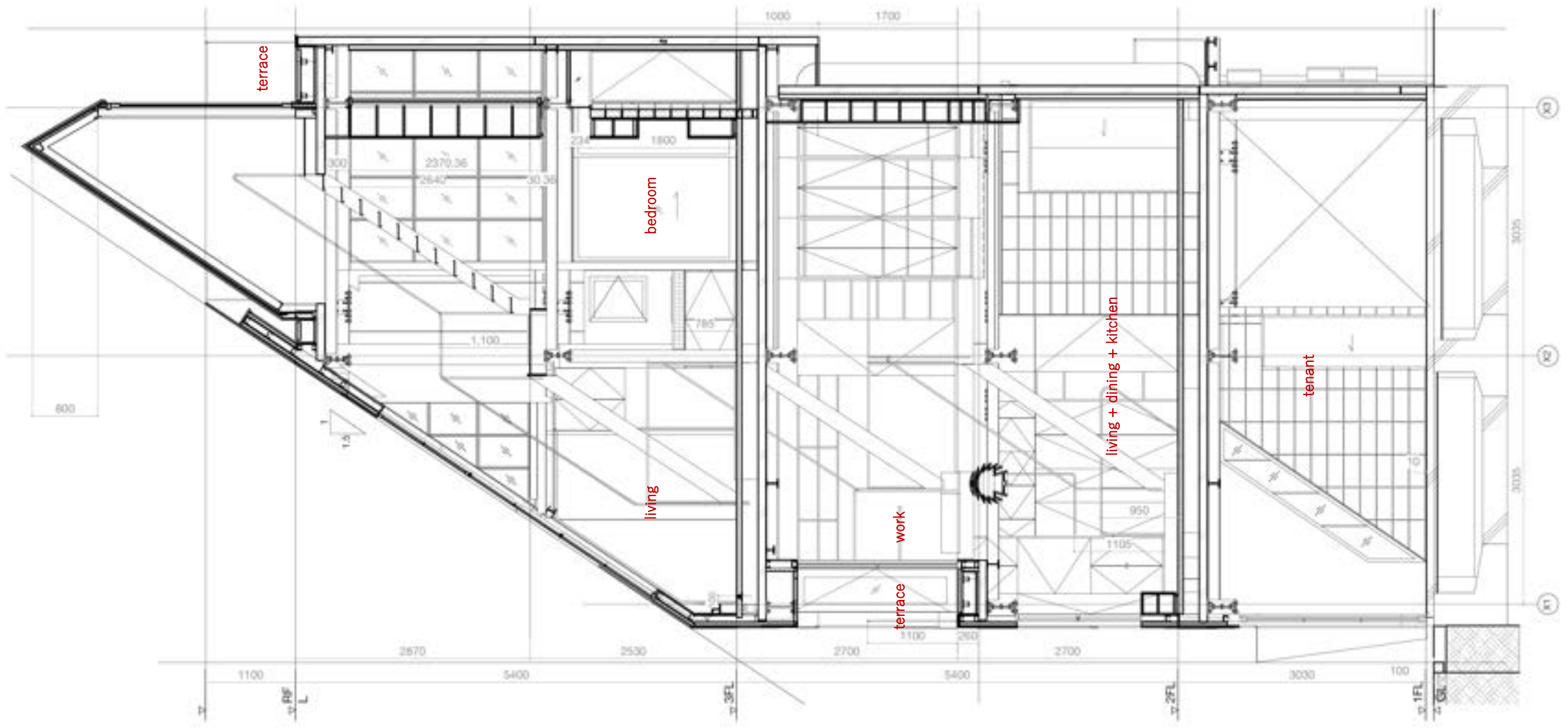
north – south section



west – east section



north – south section



north – south sectional detail



design and supervision : ogawaa design studio + Mariko Sakurama

construction : Inase Construction Co., Ltd.

fabric design : Fabricscape Co., Ltd. + ogawaa design studio

graffiti/Painting : Yui Kojima

photo : Akira Ito (aifoto)



appendix

がらくた とは

ウィキペディア他より

がらくた（ガラクタ、我楽多、瓦落多、瓦落苦多）は使い道のない、役に立たないもののことである。値打ちのない雑多な品物や道具類などをいう。しかし後述のとおり、視点によっては価値を見いだされる場合もある。

<語源>

「がら」は「がらがら」という音、「くた」は「あくた」（芥）の略又は「朽ち」。



<別の視点>

- ・ 収集趣味  
骨董品のように、がらくたに分類された古物に価値を見出した収集家によってコレクションの対象とされることがある。
- ・ リユース  
自動車や重機、電子機器などのがらくたのうち、動作する可能性がある部品は「ジャンク品」として再販売されることがある。
- ・ リサイクル  
スクラップ等の産業廃棄物（廃金属）もがらくたに分類されるが、リサイクルの観点からは重要かつ再生可能な資材へと変わる。近年はステンレス、鋼鉄といった材料に、再生市場のニーズが高まっている。携帯電話など電子機器のがらくたは、電子回路に希少金属が含まれるため、これを収集してリサイクルするために、都市鉱山という概念が生まれている。

<使い方・例文>

- ・ あなたにとってガラクタでも彼にとって立派な宝物なのだ。
- ・ 骨董品の収集が趣味の祖父は、いつも祖母からガラクタばかり買うなと怒られている。
- ・ 近所の使い道がわからないものばかり置いているリサイクルショップは、通称ガラクタ屋と呼ばれている。



## 天満 食と歴史と活気が密集するまち

### <変遷>

- ・旧淀川（大川）が曲流する北西側の地域を指し、現在の町名では天満、東天満、紅梅町、松ヶ枝町、天満橋、同心、与力町、天神橋、末広町、南森町、天神西町、菅原町、西天満、南扇町などにあたる。（計画地は天神橋）  
天満の地名は当地に鎮座する大阪天満宮の転訛による。  
日本三大祭のひとつに数えられる**天神祭**、南端の大川に架かる浪華三大橋（天満橋・天神橋・難波橋）で知られる。
- ・大川を挟んで上町大地の北に位置する天満は、天満砂堆と呼ばれる微高地の南端にあたり、**淀川が氾濫しても水没を免れる古代より人が住む平地**（難波津）として古い歴史をもっている。
- ・もとは1585年に建立された**天満本願寺の寺内町**であったが、秀吉は天満を船運の拠点にしようと考えており、その後船場に移った生魚商・塩干魚商らが居住していた。江戸時代には大坂三郷の1つ「天満組」と呼ばれていた。
- ・1653年、京橋片原町から天満の淀川沿岸に青物市場が移転し「**天満青物市場**」が誕生、長年大坂の青果取引を独占する官許市場として繁栄し、周囲には野菜などに関わる商家が多く集まった。（「**天下の台所**」**食の都**・**大坂の象徴**）
- ・1870年大川西岸部に造幣局の本局が置かれ、関連して中小の金属工場やガラス工場、紡績工場などが周辺に誕生。  
特にガラスに関しては、東京と並ぶ**ガラス産業発祥の地**となった（天満切子等の店が現在も活動）。  
また、大阪天満宮周辺は劇場や寄席が並ぶ**繁華街**となり、商人や職人でにぎわった（2006年繁昌亭オープンへ）。  
以後10909年北の大火、1945年大阪大空襲で天満のほとんどが炎上する被害を出す、そのつど復興されている。  
1931年に天満青物市場の大阪市中央卸売市場への集約、大阪大空襲による消失、戦後の経済情勢の変化やオフィス化、地上げなどにより、劇場街も消え、焼け残った町家も取り壊され、商家が立ち並んだ時代の空気は薄れた。  
1968年には天満堀川が埋め立てられ、阪神高速12号守口線が建設。1978年には大幅な町名改編が実施され、多くの町名が姿を消す。

### <天神橋筋商店街>

- ・大阪天満宮からJR天満駅まで南北に通る**日本一長い商店街**。もとは南の大川、北の淀川から「**大阪天満宮**」の参道だった通りに店が集まり、人が集まった結果できた長い商店街に多くに店が軒を連ねる。  
天一～天三は江戸時代、それ以降は明治時代にできた為、もとは畦道だった天五から道幅が狭くなる。

### <裏天満>

- ・JR天満駅周辺“安くて旨くておもろい”店が密集する大阪で最もグルメな街の1つ。天満市場・場外市場の空き店舗を利用して2013年頃から発展したため、テラス席がビニールシートで仕切られる**屋台の集積のような街並み**。（ビニシー通り）



6～7世紀の大阪



浪速天満祭  
(天神祭)



天神橋筋商店街



裏天満+提灯通り



天満市場



天満天神繁昌亭



大阪天満宮

